

2010年度 千葉大学ぬいぐるみ病院報告書

文責：千葉大学2年 永久保冨香

●世界各地、日本全国で行われているぬいぐるみ病院を千葉大学でも3年前より実施させて頂いております。今年も数多くの方々のおかげで4回目を実施することができました。

ご協力頂いた先生方や学生の皆さん、本当にありがとうございました。ここに、今年度のぬいぐるみ病院を報告させていただきます。

■実施概要■

期日：2010年9月9日（木）

2010年9月10日（金）

場所：千葉大学教育学部附属幼稚園

対象：年中59人（ほし組・ゆき組）

■参加者■

《医学部》

1年生：4人 2年生：7人

3年生：2人 6年生：1人

《看護学部》

1年生：6人 2年生：3人

■実施までの流れ■

～4月：幼稚園にて代表挨拶

メールにて幼稚園との話し合い

～5月：参加者募集・説明会

～7月：中心メンバーで話し合い

8月中旬～：模擬診察の練習・保健教育の準備

8月下旬：ぬいぐるみ総会参加

■模擬診察■

○当日の流れ

当日は集会室をお借りし、ぬいぐるみ病院を設置した。

園児の流れとしては、

①各組の保育室から6、7人ずつ誘導の学生の案内よりぬいぐるみ病院受付へ

②受付にて、園児の名前やお友達（ぬいぐるみ）の名前などをカルテに記入

③診察室に呼ばれるまで受付にて病院に関するお話

④看護師の誘導で診察室へ

⑤レントゲンや薬局にも行く（誘導は看護師）

⑥診察が終わり次第、アンケートへ

⑦各組の保育室へもどる

○各部屋の内容

①受付

ここで、園児が持ってきたぬいぐるみと園児自身の名前、ぬいぐるみの病気の主訴を聞き、カルテに記載する。園児の参加人数が少ない場合は、ここからすぐに診察室に入ってもらおう。

待ち時間の間、イラストを用いて学生が病院に関するお話・クイズ、応急処置についての紙芝居を行う。

②診察室

ブースを5つ作る。

子供の考えてきた症状をもとに器具(特に体温計と聴診器)を用いて診察する。診察時、

その診察の意義を説明する。また、聴診器の説明の際には子供自身の心音を聴いてもらう。最後に診断結果を伝え、ぬいぐるみのためにしてあげること、自分が気を付けることを約束する。カルテ、レントゲン画像をブースに置いてある封筒に入れ、園児に持たせる。

③薬局、レントゲンブース

必要に応じて薬の処方、レントゲン撮影を行う。

④アンケート

診察を終えた園児に対して簡単なアンケートを行う。

質問項目は以下の通り。

- ・今日は楽しかったですか？
 - ・お友達の病気は良くなりそうですか？
 - ・これなんだか分かるかな？
(聴診器と体温計)
 - ・何が楽しかった？
- 何か怖そうだったものある？
- ・またやりたいですか？

○今回の模擬診察を実施するにあたり注意した点

- ・ブース数

診察ブースは5ブースにした。5ブースとブース数が少なめで時間がきつめだったため、診察が終わったブースから次の園児を連れていくようにし診察ブースの空き時間を作らないようにすることで、時間に余裕をもって終了することができた。

- ・園児に渡すもの

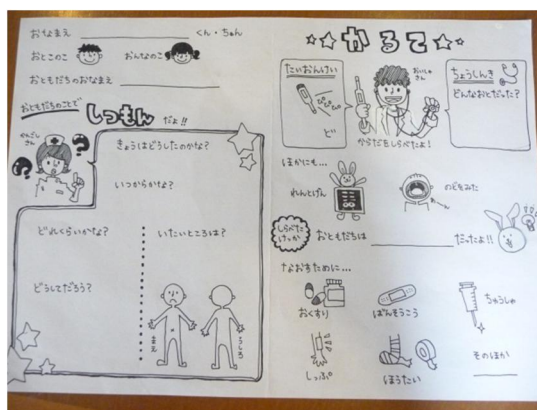
今回、園児に渡すものとしてはカルテと、内科系ではお薬、外科系ではレントゲン画像など、こまごまとするものが多くなるため、それらを封筒に入れて持って帰っても

らうようにした。名前の確認が簡単にできるように、透明な封筒に入れることでカルテの名前が見えるようにした。

お薬は園児が自分で味（バナナ、いちご、メロン）を選べるようにした。

- ・模擬診察の練習

実施で自信をもって診察ができるよう、準備期間には学生の模擬診察の練習回数をカウントして、練習回数を確保するようにした。「目を見てゆっくり話すこと」を徹底した。



■主な主訴・園児アンケート■

○ぬいぐるみの主訴

[内科系]

頭痛 8人、腹痛 20人、のどの痛み 1人、発熱 7人、せきが出る 1人、だるい 1人、鼻水 3人、くしゃみ 1人、かぜ 3人

[外科系]

腕の骨折 2 人、脚の骨折 9 人、
頭の骨折 2 人、しっぽの骨折 2 人、
手の骨折 1 人、手の外傷 2 人、
脚の外傷 4 人、腰痛 2 人

○園児アンケート結果

①今日は楽しかったですか？

はい：59 人

いいえ：0 人

②ぬいぐるみの病気は良くなりましたか？

はい：54 人（良くなりそう、少し、もう少しで、これから）

いいえ：2 人

その他：3 人

③これなんだか分かるかな？

両方わかった：37 人

聴診器のみ：6 人

体温計のみ：14 人

分からなかった：2 人

④何が楽しかった？怖かった？

〈楽しかった〉

体温計 5 人、聴診器 2 人、薬 1 人、包帯 1 人、レントゲン 6 人、その他 3 人

〈怖かった〉

聴診器 1 人、注射 1 人

⑤またやりたいですか？

はい：51 人

いいえ：4 人

わからない：4 人

■保健教育■

○概要

保育室では保健教育を実施した。今年テーマを「食育」に設定し、「うんちができるまで」「あか・みどり・きいろのたべもの」を実施した。終了後には「からだはかせ表

彰状」を配った。

○あか・みどり・きいろのたべもの

①みんな今日はちゃんと朝ご飯たべたかな？

みんなどんな食べ物が好き？きらい？

好き嫌いしてるたべものあるかな？

今日は元気に毎日遊ぶためにはどんなたべものを食べたらいいいのか、一緒にたべもの勉強をしよう。

②今日はたべものをあかぐみ、みどりぐみ、きいろぐみに分けます。

みための色とはちがうから気を付けてね。

たべものの働きによって分けるんだ。これからこのカードをはっていきたいんだけど、やりたい人？

→やりたい子にカードを配る。じゃあカードのうらの色を見て、同じ色のところにはろう。

きれいにあかぐみ、みどりぐみ、きいろぐみに分けられたね。

③これからどのいろがどんなはたらきをするのか覚えてみよう。

あとでジェスチャーゲームをするから、よくジェスチャーを覚えてね。

あか（肉や魚があるね）はからだをつくる
みどり（野菜や果物があるね）はからだをまもる

きいろ（ご飯やパンがあるね）はからだをうごかす

一緒にジェスチャーをやってみる

たべものはこんなふういろいろなはたらきをするから、ごはんをしっかり食べるとみんなが元気に遊んだりできるんだよ。

④じゃあおべんとうに何色の食べ物のなかまが入っているか、みんなでジェスチャー

ゲームをしながら考えてみよう。
いろをいったらそのジェスチャーをみんな
でしてね。

例、ごはんはきいろ、からだをうごかす(は
たらきを言いながらジェスチャーをする)

⑤いろいろな色の組のたべものが入ってい
ると、カラフルでおいしそうに元気になる
おべんとうだね。みんな野菜きらいか
な?でも好き嫌いばかりして、たとえばみ
どりぐみの食べ物をたべたりないと、病気
になりやすくなったり元気がでなくなっ
ちゃうよ。

みんなもようちえんやおうちで、先生やお
うちの人と一緒にたべものジェスチャーゲ
ームをしながら、楽しくしっかりごはんを
食べようね。



○うんちができるまで

紙芝居形式で「うんちは健康のバロメータ
ーであること、ごはんをしっかり食べるこ
と、からだを動かして元気に遊ぶこと、早
寝早起き」を伝えた。保健教育終了後には
うんちチェックカードを配った。

■アンケート結果■

○学生アンケート

- ぬいぐるみ病院に参加したきっかけ
・先輩、友人に誘われた 11人

- ・メーリス 3人
- ・去年も参加したから 3人
- ・もともと興味があったから 2人

①現時点において目的をどの程度達成でき
たと思いますか?

1 (できない) 2 (あまりできない) 3 (変
化なし) 4 (少しできた) 5 (できた)

[1]幼稚園生に自分の体や健康について興
味を持ってもらう → 3.79

[2]医療に対する恐怖心を取り除く
→ 4.00

[3]子どもに病気を説明するスキルを身に
付ける → 3.63

②どのようにしたら、さらに目的を達成で
きると思いますか?

- ・子供たちにもっと興味をもってもらえる
ようにコミュニケーションや設定を工夫す
る。

- ・診察練習の時にいろんなパターンをやっ
ておく。

- ・内装を病院に近づける。

- ・園児の意見を聞く。

- ・何回も経験を積んで園児慣れする。

- ・もっと子供にしゃべらせる。

- ・難しいことをわかりやす言葉で説明する
練習をする。

- ・1日目の反省を全体で共有できたらよい
と思った。

- ・参加経験のある人の話を聞いておく。

- ・知識をつけたい。

③自分の役割に対する反省点を教えてく
ださい。

- ・子供のころがあまりわかっていなかった。

- ・医師のときにもっと診断の種類を増やせ
たらよかった。

- ・こどもの注意をひく話し方ができればよかった。
 - ・子供と会話をして緊張をほぐせたらよかった。
 - ・もっと話の引き出しがあればよかった。
 - ・園児に飽きずに診察を受けてもらうのが難しかった。
 - ・最初は緊張してしまった。
 - ・こどもに対する言葉づかいが難しかった。
- ④ぬいぐるみ病院を継続して行っていく場合、どのような点を改善したらよいと思いますか？
- ・病気の説明をもっとわかりやすくできるように練習する。
 - ・特定の部活のつながりばかりではなく、もっといろいろな人たちが参加しやすい状況をつくる。
 - ・病気の知識をもっと増やす。
 - ・幼稚園側とよく話し合いをしていく。
 - ・紙芝居の時間や回数を工夫する。
 - ・園児自身が体験できるようなものを取り入れる。
 - ・もっと園児に話をさせる。
 - ・聴診器の使い方など、講習会をする。
- ⑤保健教育について
- ・園児参加型にしたのはよかった。
 - ・保健教育の途中にはさむ遊びで、激しい遊びはさけるよう先生に指摘されました。
 - ・紙芝居の回数を増やしたが、段々飽きてしまう子がいた。
 - ・先生はそれぞれの子供に目標をもたせてやっているのだからそれは邪魔してはいけない。
 - ・園児は色に敏感。(みどりのグループにりんごが入っていると疑問をもつ)
 - ・長い針、短い針はわかるので、いつからやるか時間をもっと明確に伝える。

- ・うんちチェック表はむずかしかった。
 - ・口調はゆっくりめが良い。
 - ・ポーズを活用したゲームをもっと入れられたらよかった。
 - ・教育学部の院生がいて、先生方も子供たちの遊び方を観察していて、改めて普通の幼稚園ではなく、教育機関なのだなど実感した。
- ⑤その他、感想など
- ・ためになった。子供とどう接すればよいか学ぶことができた。
 - ・楽しかった、園児がかわいかった。
 - ・小児科もいいなと思った。

○幼稚園の先生方へのアンケート

1. ぬいぐるみ病院の後、園児に変化がありましたか？

Yes→1人、まだわからない→2人

2. 具体的にはどのようなものでしたか？

- ・病気やけが、その手当に興味を持った。
- ・行ってから数日、土日を含んでしまったので幼稚園生活の中ではまだ変化がみられないが、今後出てくることがあると思う。

3. 今回、全体を通してよかった点、改善点

- ・全員が喜んで行き、楽しかったと言っていた。企画もよかった。
- ・行った人がわからなくなってしまったので名簿でチェックすべきだったかとも思いました。
- ・保育室の研究所は内容を検討する必要があると思った。食べものについては難しかった。うんちについては大切であるが、伝え方が難しい年頃であり、もっと工夫が必要であると思う。
- ・こどもとの距離の取り方も難しい。

- ・終わってからもお薬やカルテを友達同士見せ合い、楽しそうに話をしていたのが印象的だった。きれいなカルテ、お薬、レントゲンなど準備してあったのがよかった。
- ・流れがスムーズだった。
- ・子供たちが自分が父親や母親になった気持ちを味わえて良い。
- ・保健教育については、幼児の特性をもう少し学んで興味を持たせるような工夫ができるともっと良い。(大きな声で話す、ゆっくり話す、表情豊かに話す)
- ・やさしく抱く、優しい言葉をかける、などぬいぐるみの看護のしかたについて、詳しく教えてもらえるとよかった。

○保護者の方へのアンケート

1. 今回のぬいぐるみ病院の後、お子様に変化がありましたか？

はい →32人

いいえ→12人

2. 具体的にはどのようなものでしたか？

- ・カルテを大事そうによく読んでいた。
- ・自分の体にも興味をもっていた。
- ・長い間遊ばなかったぬいぐるみと遊ぶようになった。
- ・いつもぬいぐるみを乱暴に扱っていたのに、持参したぬいぐるみを何気なく親がつかんだら、「その子は骨が折れているからそんな風に持たないで」といたわるような行動を3日経ってもとっている。ずっと続くといい…
- ・病院に行くのが怖くないと言っていた。
- ・自分から処方箋通りに薬を飲ませていた。
- ・病院や薬の話を楽しそうに話していた。
- ・薬を飲ませないとお母さんみたいになっていた。

- ・聴診器で遊び、祖父とききっこをしていた。
- ・お医者さんになりたいと言い出した。
- ・ぬいぐるみの世話をする立場が新鮮で嬉しかったようだ。
- ・研究所の後から、食事について「これは赤」「これは黄色」など健康な食事を意識する発言が聞かれた。
- ・病院ごっこをしていた。
- ・けがの手当てに興味をもっていた。
- ・病人をいたわる優しい心が芽生えたようだ。
- ・「苦くないからね」といたわりながら薬を飲ませていた。

3. ぬいぐるみ病院に関してお子様から発言などありましたか？

- ・ぬいぐるみの病気がよくなって嬉しい。
 - ・楽しかったのでまた行きたい。
 - ・薬をあげなくちゃ。
 - ・どきどきした。
 - ・先生が優しくかった。
 - ・レントゲン写真を説明してくれた。
 - ・どんなふうに診てもらったのか具体的に話してくれた。
 - ・注射がこわかった。
 - ・私がお母さんになった。
 - ・うんちの話をしてくれた。
 - ・いつも行く病院と同じだった。
 - ・特別スペシャルで心臓の音を聞かせてもらったよとうれしそうだった。
 - ・薬の飲み方を説明してくれた。
 - ・先生の発言を真似していた。
 - ・普段あまり話さない子だが、ぬいぐるみ病院の様子を自分から話してくれた。
4. その他
- ・ケアの気持ちが芽生えたように思う。

- ・年長さんでもやってほしい。
- ・小児医療に携わる方が多くなることを希望する。
- ・カルテがわかりやすくてよかった。
- ・病院に対するイメージも変わったようだ。
- ・今後も実施してほしい。
- ・今度はもっと器具を触らせてもらえたり、お医者さん役になれたりしたらいいと思う。
(小学生くらいで)
- ・家で話す練習をしていったが、うまく話せなかったようだ。上手に相手に言いたいことを伝える大切さも学んだようだった。
- ・こどもが目を輝かせて学んだことを話してくれた。貴重な体験だった。
- ・うんちの話がとてもよかった。
- ・今後も活動をがんばってほしい。

■全体を通して■

◎模擬診察の一連の流れについて

去年の反省にもでていたが、診察パターンのバリエーションが少なく、一定になってしまった。

模擬診察の練習回数を増やしたり、診察についての講習会をしたいと思う。

◎園児が持って帰ったもの

昨年の名前がわかりにくくなってしまったという反省を活かして、持って帰ってもらうものを透明な袋に入れたことで、名前を見やすく無くさないようにした。今回、内科では薬、外科ではレントゲン写真、研究所ではチェック表と表彰状を持って帰ってもらったが、家で振り返る時に思い出しやすくするため、説明しやすくするために持って帰ってもらうものを増やした。

◎保健教育について

保健教育は園児がずっと聞いているだけ

にならないよう、参加型のものを取り入れた(園児に食べものカードを貼ってもらう、ジェスチャーゲームをする)。

ただ同じ教室で数回、同じ内容をやるのではじめ方が難しく、また最後の回になると飽きてきてしまう子がいた。これから保健教育の種類を増やしていきたいと思う。

また今回のテーマは伝えるのが難しいテーマだったので、内容を再検討してより良いものにしたい。

食育の方では、色でグループを表すと園児は混乱してしまうので、はたらきのみでグループを表せばよかった。うんちのしくみも敏感な年頃であるから、大切さを伝えるにはもっと工夫が必要だった。

園児の注意の引き方、理解力、園児の特性について今後、勉強会などを開いて保健教育を作っていくことが必要だと感じた。

◎アンケート結果から

ぬいぐるみ病院の成果が少しでも現れていることが感じられ、うれしい限りである。今後も続けてほしい、年長でもやってほしい、という声があり、今後も積極的なメンバーを募って継続していく努力を続けたいと思った。

今回は保健教育のテーマが難しかったようだった。でもぜひ子どもたちに伝えたいテーマなので、子どもたちが興味をもつような工夫がもっと必要だと感じた。そのためには、こどもの特性や心理について知識をつけられるような勉強会を開きたい。

アンケート結果から、園児・学生それぞれのニーズが少し見えると思うので、反省を活かしていきたい。

◎当初の目的と照らして

全体を通して、当初の私たちの目的であ

る、園児に体について興味を持ってもらう、ケアの気持ちを持ってもらう、恐怖心を無くすなどは達成できたのではないかと思う。学生が子供に医学的知識を説明するスキルを身につけるといのは訓練が必要だが、今回の体験で問題意識をもつことができたのではないかと思う。

◎今後について

園児の経過を見たり、学生の経験を増やすために、活動の幅を広げていきたいと思う。また、学生同士がスキルアップできるような勉強会が企画できたら良いと思う。

最後になりましたが、千葉大学教育学部 附属幼稚園の先生方、保護者のみなさま、ぬいぐるみ病院総会でお世話になった方々、諸先輩方、本当にありがとうございました。みなさまのおかげで第4回のぬいぐるみ病院が成功したと思います。

今後ともよろしくお願いします。

2010年度千葉大学ぬいぐるみ病院代表

千葉大学医学部2年

永久保冨香

